





第二十六回 東部地区 三笠代理店会開催

五月十八日(水)十九日(木)



十分、茨本国内営業部長の司会により第一部の代理店会が始まった。初めに京谷社長より皆様にご挨拶があり、冒頭、先月二十七日に執行行なわれた故京谷弘道会長の社葬に際して、皆様より賜わったご厚情にお礼を申し上げた。次に、代理店各位の日頃のご支援に對してお礼を申し上げると共に、今年度の方針として小型建設機械のトップメーカーの地位をゆるぎないものとするため、メイン商品である高周波パイプブレイターの更に充実した品揃えや改良を精力的に進め、又、

昭和五十八年度の東部地区三笠代理店会は、好天に恵まれ五月十八日(水)、十九日(木)の両日、東京品川の新高輪プリンスホテル「平安の間」に於いて代理店三十九社、輸出商社十四社、報道関係七社の方々の参加を得て開催された。



好天に恵まれ、定刻午後一時ご挨拶申し上げた。続いて吉田専務より本年度の新製品について説明が行なわれた。本年度の新製品は、オイルバス式、小型軽量なエンジン駆動のMT-50型タンピングランマーと音の静かな三笠独特の電動ランマーMT-50型、強力な輾圧力を持ち、方向転換の必要のない世界最小のMVC-135、145型前後進型パイプコンパクター、プラスチックボディ、二重絶縁前面密閉型モーター使用のMVA型(NP軽便型)コンクリートパイプブレイター、MHC-8A型の改良モデルで小



新製品の説明を熱心に聞き入る代理店の方々

型軽量、10吋のドライタイプダイヤモンドブレード使用のMHC-10型ハンドカッターの四機種である。続いて技術的問題について活発な質疑応答が行なわれ、小林専務の閉会の挨拶の後、引き続き会場をホテルの駐車場へ移動し、記念撮影の後新製品の演説を見ていただき、第一部の代理店会を終了した。

第二部として大相撲五月場所十一日目の観戦の為、バス二台中入り後の一番から打出しまでひと時を楽しんで頂いた。打出し後再びバスにて新高輪プリンスに戻り、天平の間に十九時三十分より第三部の懇親会が高野海外営業部長の司会により始まった。開宴に先立ち長谷川専務より本日御出席下さった皆様方に対してのお礼と本日の相撲観戦についての話を折り混ぜてご挨拶申し上げた。続いてご出席代理店を代表され、諸報工機機(新潟)諸報社長より、報工機機(新潟)代表され工業時事通信社吉田会長よりお祝辞を頂戴し、住友商事(株)岸田部長の音頭により乾杯し、懇親会の幕を開いた。第三部のアトラクションとして日本相撲協会理事、審判部長の要職にあり、皆様にはお馴染みの元横綱柏戸の鏡山親方が忙しな三笠代理店会のために来場され、一段と宴席が盛り上がり時の経つのを忘れる程であった。最後に平戸常務の閉会の言葉により定刻通りお開きとなり、翌十九日は朝食の後解散した。清水記

NEW PRODUCT '83 58年度新製品

タンピングランマー

堅牢なことで知られる三笠のタンピングランマーに度々新七い仲間が加わった。エンジンで駆動するMT-50型、モーターを動力としたMT-M50型の二機種である。この両機種に共通していることは、ランマーの動力伝達機構・往復動機構をほぼ内部の諸機構の潤滑にオイルを使っていることである。他のMT-R型のランマーはこれら内部機構の潤滑にグリスを用いて、一定時間毎にグリスニップルからグリスを注入したり、MT-R55型のようにグリスタンクをクランクケース上部に設けているものもあるが、これらグリス潤滑方式を採ったことがMT-50型ならびにMT-M50型の一つの特長ともなっていて、これは外見からクランクケースとガイドシリンダーを接ぐ部分に、大きく目立つベローズがあるの

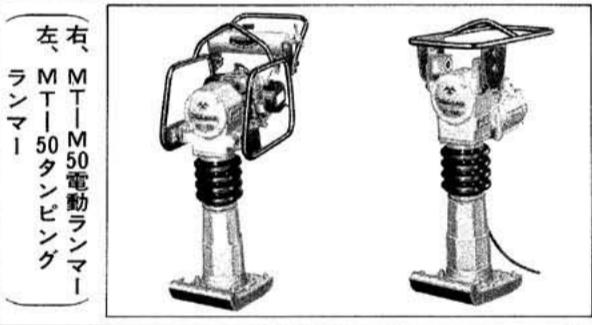


Table with specifications for MT-50 and MT-M50 models, including dimensions and performance metrics.

を下に畳んで使うと邪魔にならない。モーターを動力とするMT-M50型は、クランクケースから下のガイドシリンダー等の往復動機構を含む部分はエンジン式の50型と同じ部品で構成され、スッキリとした形にまとめられ、夜間作業など音を制限される場所に向いている。これに防音カバーをかぶせれば更に音を低くすることが出来る。溝のなかの締め固めにはハンドルの幅をワイドとほぼ同じに狭くした特製のハンドルも用意されている。排気ガスのこもる深い穴のなかでの作業には電動ランマーもついでである。電動ランマーも大きな跳びねで強い輾圧力を発揮する。100V単相電源があれば手軽に使えるので一般家庭の基礎固めなどには、音も静かでよく締め固められるのでこのM50型電動ランマーがこれからは活躍するのではなからうか。MT-50型・M50型いずれも七月下旬から一斉に発売される。

パイプコンパクター

前進後進自在に締め固める世界最小のパイプコンパクターが登場した。路盤の締め固め専用機の充実を計る三笠が、今年の新製品のひとつとして、軽便小型、こまわりの効く機動性を特長とする100シリーズMVC-135型と145型のパイプコンパクターを完成したのである。いずれも空冷ガソリンエンジン、ロビンEY20D形(5PS/4000rpm)を動力としている。エンジンの周囲は吊り下げ用フックを兼ねた枠でガードされ、ハンドルはエンジンベースにピンを介して取付けられていて、状況に応じて位置を変え、または固定させて作業を行い、この際、ハンドルを垂直にする。ハンドルには特に防振装置は設けていないが、エンジンベースと輾圧盤とを接続する部分に設置された防振ゴムがよく効いて、手許への振動を吸収し、エンジンの防振を兼ねている。起振装置は200シリーズと同様、二軸偏心式で強力な締め固め能力を発揮する。ハンドル手許のレバーを操作してパイプコンパクターを前進または後進させることができる。前述の可変式のハンドルと相まって狭い場所での作業を可能としている。MVC-135型の輾圧盤の幅は340mmで、機体の全幅もこれに等しく、狭い溝のなかでの締め固め作業などにもってこいの機種である。この135型には輾圧盤の左右両側にエクステンションプレート(補助輾圧盤)を取付け輾圧盤の幅を490mmに広げて軟弱な場所での作業を容易に行うことができる。MVC-145型の方は輾圧盤の幅450mm、これはエクステンションプレートは付けられないが、これに使われている輾圧盤の四隅のコーナーには丸みがついてあり、路盤の締め固めだけでなく、アスファルトの表面をきれいに仕上げ輾圧することが出来る。今回の100シリーズの完成で、200・300型と三笠パイプコンパクターの陣容は一層充実され、幅広いご要望にお応えできる体制を整えられた。MVC-135型・145型は八月上旬から市場に出る予定です。



Table with specifications for MVC-135 and MVC-145 pipe compactors, including dimensions and engine details.

移動車とエクステンションプレートを取付けたMVC-135型

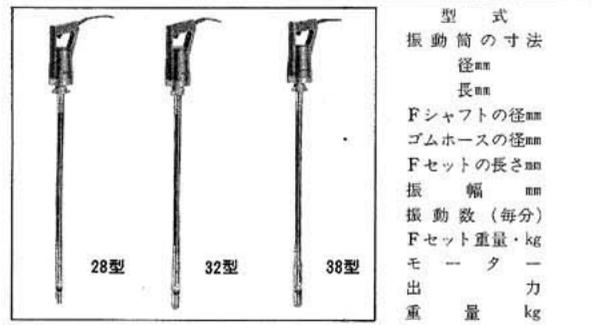


Table with specifications for MVA series concrete breakers, including dimensions and power ratings.

き、出力は280W、電流値は4.5A。いままでMVA型(新軽便型)に使用されていたプラスチックモーターと、出力は同じであるが、重量は約500g軽くなっている。また、軽便パイプの代表とも言える51型のモーターに比べ出力は20%以上も強化され、目方は20%程も軽くなっている。このMVA型のモーターには特別注文品としてモーターのフロントカバーの通風穴を塞いで通風筒をつけ、これをモーターのハンドルの近くまで伸ばした前面密閉型の飛沫がフロントカバーの通風穴からモーターの内部へ浸入して起る不測の事故を防ぐため思い切ったフロントカバーを塞ぎ通風筒をつけた。通風筒はぶつかっても壊れないよう柔軟な構造で、取はずして内部を掃除できる。シャフトセットはMVA型(新軽便型)のものがある。またお使いいただけ互換性がある。また振動筒に鍍金を取付けば外部用パイプブレイターとしてもお使いになれるなど、軽便パイプとしての優れた点はそのままに受け継いでいる。MVA型の登場で永い歴史を持つ三笠の軽便パイプブレイターが一番使い易いとの評判が更に高まった。

# 三笠協力工場 (株)電機商工所 新工場落成

## 新工場落成

三笠コンクリートバイブレイターの主要部分の製造を担当している笠友会々員である(株)電機商工所(本社 東京都品川区北品川五丁目四番十四号 杉浦一郎社長)に於いては、かねて京浜工業地帯を後背に控えた中心的位置の京浜島の一画、京南工業協同組合工場団地内に新たな工場を建設中でしたが、去る四月十五日(午後二時より)、同社京浜島事業所(東京都大田区京浜島二丁目四番十七号)に於いて、取引先及協力工場各社の代表をお招きし、竣工式に続いて

盛大な披露宴を催しました。この日三笠産業から吉田専務をはじめ関係者がお祝いに出席いたしました。

京浜島は東京国際空港に近く、言うよりは滑走路の延長上に位置する埋立地で、東京湾を岸道路に面し、近くには野鳥公園などもあります。

この京南工業協同組合の工場団地には機械金属関係の工場八社が入っています。電機製造は六十年余の歴史と伝統を誇る電機商工所一社のみで、このなかではいわば異色の存在でもあります。このたび新築された



杉浦社長  
と新社屋



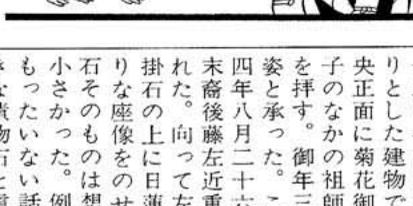
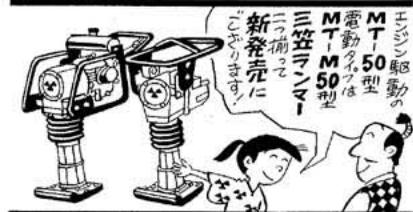
京浜島事業所は一五〇〇平方メートルの敷地内に建てられた。A L C張り鉄骨構造一三九二平方メートルの二階建てで、二階の約半分が設計を含む事務室となっている。他は、すべてが生産施設とモノリフトの無人倉庫です。

電機商工所の本社がある附近は、以前は工場が建ち並んでいましたが、現在は周辺の住宅化が進み、この工場団地そのものは品川区を中心とした城南地域の市街地にあるこうした各企業が、公害を防止し企業体質を改善する高度化事業として三年余り前から計画したもので、今日目度く完成の運びとなったものです。

三笠のバイブレイター部門の一翼を担う電機商工所の益々のご発展をお祈り申し上げます。

— 萩本記 —

### 忍法猿流 NO.68 三笠丸 永井郁



三笠のバイブレイター部門の一翼を担う電機商工所の益々のご発展をお祈り申し上げます。

## 建設機械展示会(札幌展)

### 盛大に開催される

北国札幌もようやく春の訪れを感じる四月中旬、日本建設機械協会北海道支部主催の建設機械展示会が札幌市の道立産業共進会場に四十六社のメーカーが出品して盛大に開催された。

北海道をとりまく経済環境もこの数年大変厳しいものがありますが、この展示会で不況風を吹き飛ばす意気込みが会場内にも漲っていた。

展示会設営は四月十一日より進められたが、折悪しく台風並みの強風に設営も難行したが設営担当者の努力で十四日の開催日にはすっきり出来上り、開会式を迎える事が出来た。期間中も藻岩下ろしの札幌特有の春の強風が吹き荒れ、展示会場のメーカーの看板が吹き倒される等悩まされたが、待ち望まれた展示会だけに五日間で延べ二万六千人の入場者があった。

三笠の展示場に於いては、幅広い商品をキャッチフレーズに多数の御来場を仰いだ中でも話題が集中したのは前後進の出来200シリーズのバイブレイターで、電設関係、レンタル業者の方々に特に注目され、展示場に於いて御契約を頂けた。

この展示会を通じて販売店、レンタル業者及びユーザーの皆様にも尚一層の連帯感を深められ、またあらゆるお客様に三笠の力



札幌課 堀江記

## 大盛況

### (株)不二の展示会

長野県の有力な代理店である(株)不二(本社 上田市住吉)神科バイパス通り 社長 小宮山昌男氏)では新社屋落成七周年を記念して大展示会を上田市の本社に於いて、四月二十三日(土)と二十四日(日)の二日間開催して多大の成果を挙げた。

両日とも好天に恵まれ朝早くから大勢のお客様にご来場戴き、各メーカーの小間では商談が次々と決まり、その度に小気味良い三本締めの手締めがひびき、会場はいやが上にも盛り上がった。

三笠の小間では、MDR120N搭乗型振動ローラー一台を始め、高周波バイブレイター十数



セット、プレートコンパクター、ランマー等十四点の商品を次々とご成約いただいた。又他メーカーの小間でも数多く売約済の貼紙が張り、参加メーカー、来賓のお客様、不二さんの担当が一体になって樽酒やビールをあげる程にやがてカラオケも飛び出してムードは絶好調に盛り上がった。

(株)不二さんは建材、金物販売と仮設機材、建設機械リースと幅広く商売を行っており、近年では修理等のアフターサービスにも力を入れておられ、その豊富な経験をかかわって小宮山社長は長野県リース業協会の設立

総会で栄えある初代会長に選出されて、その人柄は多くの同業者から支持されているのがわかる。

三笠製品も、年々販売拡販に協力を頂いており、今後益々のご発展、ご繁栄されます様お祈り申し上げます。

松沢記

## 故京谷会長縁りの 實教寺を 訪ねて

### 訪ねて

横須賀線逗子駅から南下し、一路葉山へと向う。トンネルを二つ通り抜けしばらくすると左側に消防署が見える。ついで有名な花の木公園を右に折れ、自動車やと一台通れる程度の狭い坂道、しかも雨は激しく降る。坂を下ってくる車がなかなか登りつめたところに日蓮宗懸山實教寺はある。このお寺にはその昔、日蓮聖人が房州から鎌倉へ向われる山越えの途次、腰を掛けて休まれたと言いう石が

安置してある。日蓮聖人御休息腰掛石霊跡として知られている。神奈川県三浦郡葉山一色の地である。このお寺の檀家である京谷社長の自宅もほど近く、この度故京谷弘道会長の葬儀に際してこの實教寺の住職三宅日研師が密葬、社葬と二度に亘り導師を勤められたのである。

實教寺は大永年間(一五二一年〜一五二五年)に建立され、それより三百年後の嘉永年間(一八四八年〜一八五三年)に再建されたのが現在の本堂で今から一三〇年前の江戸時代のものがしりとした建物である。本堂の中央正面に菊花御紋章を配した厨子のなかの祖師日蓮聖人の座像を拝す。御年三十二才の頃の姿と承った。この木像は元禄十四年八月二十六日蓮慶十八世の末裔藤左近重房の作と聞かされた。向って左手には問題の腰掛石の上に日蓮聖人のやや小ぶりの座像をのせて祀ってある。石そのものは想像していたより小さかった。例えとしては真にもつたいない話ではあるが、大きな漬物石と言っ感じ、腰を



(しどど雨に濡れて江戸時代の竹を今に残す實教寺の中央の木の下が古将塚)

葬法から見てこの地方の豪族主従であろうと推察されている。これを葬った古将塚と言いうのが本堂入口の右手にあった。この縁で菊花の御紋章を明治天皇から賜ったそうである。堂内には、日本の重鎮、桂太郎総理大臣の書になる「腰掛山」や金子賢太郎の「皆掃妙法」などの額が掲げられ、名士の多く住んだ恵まれた土地柄が偲ばれる。ひっそりと静かな佇みを見せる實教寺は由緒あるお寺であること知らされた。

森記

## 三笠産業札幌出張所 新社屋建築に着手

三笠産業(株)札幌出張所の社屋新築のため、かねて札幌市白石区厚別町の大谷地流通業務団地内に用地を求めておきましたが、この程、六月一日の吉日に地鎮祭を執り行ない、翌二日より工事に着手しました。

札幌出張所は昭和四十五年四月に現在の中央区大通西八丁目に開設されましたが、当時とは交通事情だけを捉えてみても、状況が大きく変化して参りましたので、これに対応できる場所を探し求め、札幌市の開発した団地に進出することになったのです。

敷地面積一三二二平方メートル。渡辺建築事務所設計になる事務所と倉庫が一つになった鉄骨構造三四〇平方メートルの建物一棟を中道機械(株)建設事業部が施工することになり、この大安吉日の日を選び、白石神社宮司の祝詞奏上に依り式は正午に始められました。この日は京谷社長はじめ担当役員ならびに札幌出張所の男子社員が参列、設計事務所、施工業者の他に近所からもお出掛け頂きました。中道機械千葉部長の司会に依り式は進められ、鎌入之儀は、設計担当者渡

辺建築事務所神戸次長が鎌、三笠産業京谷社長が鎌、中道機械高倉常務が鋤を手に、それぞれ順序に従い鎌かなうちにも滞りなく行なわれ、次いで玉串の奉奠を各代表が行なって地鎮祭は四十分程で終了。京谷社長が挨拶を述べ、札幌出張所新築工事の概略を説明、中道機械高倉常務の首領で工事の無事進行を祈念して一同乾杯しました。

堀江記

